

# まこと新聞

発行者  
高島まこと  
後援会  
明石 直大  
亀山市辺法寺町  
205  
85-1744

# 大震災ボランティア特集号

## ご挨拶

皆さんこんにちは、高島まことです。

平成23年3月11日（金）14時46分東北地方を襲った東日本大震災が発生しました。

5月13日現在 死者：1万5019人 行方不明者：9506人 避難者：11万5522人の大災害です。皆様の大切な財産、家や車、家族同然の家畜、田んぼや畑、海沿いでしたら、漁船や、養殖イカダ、鉄道、高速道路、役所や消防署、警察署、工場や会社、仕事までもが一瞬の内に奪われました。

まこと新聞第6号で東日本大震災の記事を書かせていただきましたが、昔からことわざにも有りますように・・・

【百聞は一見に如かず】：意味は、人から何度も聞くより、一度実際に自分の目で見ると確かであり、よくわかる。・・・と有ります。今回、有志で被災地に行く機会が有りましたので特集号として皆様に御報告させていただきます。

## ボランティアとは？

まず、ボランティアに参加する・・・と云うことは、活動する身の回りの物全て自分達で準備しなければいけません。移動する為の車両、燃料それに食料や水、避難所は、被災者の方の避難所で有り、ボランティアの為に用意された宿泊施設では有りません。

テントに寝袋それに現地に出したゴミは、全て持ち帰りが基本です。当然入浴は出来ません。覚悟して活動しなければ生半可な気持ちでは務まりません。きれい事では決して済まされません。

## 出発準備



今回の活動メンバーを紹介したいと思います。

チーム名	『TEAM 絆 MIE』
三重県会議員	栗野 仁博氏
元伊賀市議会議員	木津 直樹氏
名張市議会議員	浦崎 陽介氏
津市議会議員	小林 貴虎氏
(株) 交信	坂本 信喜氏
川崎二郎秘書	日下 圭吾氏
中林 法次氏	江森 英司氏
西村 正洋氏	勝原 正行氏

そして 私、高島まこと 総勢11名。5月2日から5日の4日間。目的地は、宮城県気仙沼市、三重県から実に967.2km 移動時間は、連休中と有って移動時間 何と19時間。ようやく現地に着きました。

歩を進めるにあたって廻りのメンバーの声が、無くなりました。それもそのはず車窓に見える風景は、津波の爪痕が、現実味を帯びてまいりました。

## 現地到着・第一印象

テレビや新聞、或いは雑誌等で連日連夜大震災の報道がされていますが、決して伝わらない部分が有ります。それは、臭いです。どんなにおいしい料理でも、或いは、どんなに綺麗な花でも視聴者の皆様には、臭いは伝わりません。被災地に来ないと解りません。・・・と最初は思っていました。実際体験しますと不思議に思ったより臭いは感じませんでした。

もう一つ有ります。それは、災害のスケールの大きさです。報道では、災害の大きさを説明するのは中々難しいと思います。実際、現地に行かないと解りません。実に何処から手を付けて行ったら良いのか解らないくらい広範囲で被災されているのが現状です。また、被害状況がとにかく酷い・・・言葉では言い表せません。

ボランティアセンターで説明を受けた後、我々『TEAM 絆 MIE』の活動は、津波の被害を受けた家屋の瓦礫の撤去と焼却を担当しました。（裏面に続く）



長年大変苦勞して建てた我家が、今回の大震災で一瞬の内に奪われました。その瓦礫の撤去と焼却の片付けをしている処に、主（あるじ）が近くに來まして、目に一杯涙を浮かべて「ありがとう。思い出一杯詰まっている我が家は、どうしても自分の手で燃やすことは出来ません。『TEAM 絆 MIE』の皆様のお陰です」

「おじいさん、私達は、瓦礫は燃やしましたけど、思い出までは燃やしていませんよ。」

## 津波の爪痕

自分の目を疑ってしまう様な場面を、あちらこちらで沢山見かけました。幾つか紹介したいと思います。



津波の威力は、凄まじい・・・3階建ての庁舎の上に普通自動車が打ち上げられています。実に20m以上の津波が打ち寄せられたこととなります。自然の力は、想像を絶します

この地の生活の足と云いましたら、鉄道です。定刻に成ると当たり前の様に電車が来て通勤、通学、買い物で毎日慣れ親しんだ風景が、一瞬の内に変わり果てた状態に

成ってしまいました。



この写真は、高架の線路が、途中で破壊されています。よく見ると線路の上に民家の屋根が、漂着しています。

5月8日（日）伊勢新聞にこの写真を取り上げて頂きました。



ここに路線が走っていたのでしょうか、枕木の無いレールが、剥き出しの状態に横たわっています。



農家のおじいさんが、大事に使われていました、トラクターです。何処から流れて来たのでしょうか？ とても悲しく、辛い光景です。今年の耕作は、絶望的です。

## 復興に向けて

今回、私達『TEAM 絆 MIE』の目的は、1日も早い復旧、復興に向けて少しでも被災者の皆様に手助けしたい、喜んで貰いたい。そう思い立ち上がったメンバーが、被災地の子供達に綿菓子を作ろうと、2000本分の材料と機械をバスに乗せて持ち込みました。



現地の子供達は勿論、おじいさん、おばあさんまでもが、「ああ懐かしい お兄さん ありがとうな・・・」とても美味しそうに食べて頂きました。



被災されている方の思いは、この綿菓子と同じ様に一瞬の内に現実に戻ってしまいます。これから先長い年月を掛けて復旧、復興して3月1日震災前の状態に取り戻さなくては成りません。同じボランティア

仲間静岡から美容師さんが、被災者の皆さんの散髪をしていました。しかも私達ボランティアでも時間が有れば、快く散髪して頂きました。ゴールデンウィークの稼ぎ時にもかかわらず、お店を休んで来られた様です。中々簡単に出来る事では有りません。本当に頭が下がる想いです。



目に見えない処で沢山の皆様がボランティアとして頑張ってみえます。瓦礫を片付ける人、運ぶ人、燃やす人、炊き出しをする人、散髪をする人、必ずや震災前の平穏な暮らしが出来る様、微力ながら、私 高島まことに出来ることは、させて頂きたいと思ひます。

今回のボランティア活動を体験して、この亀山市の防災対策に置き換えて考えていかなければ成りません。

がんばろう！ 日本

